

新しい春を迎えるために

～ 節分行事 ～



手作りの鬼のお面で豆まきをする園児たち

節分の2月3日、節分行事が市内各地で行われました。一般的に節分とは、春の始まりである立春の前日を指しており、豆まきは新しい季節を迎える前に邪気を払い、福を呼び込むことを目的として始まったとされています。

ひまわり保育園で行われた節分行事では、保育士が園児に対して節分の意味や目的を寸劇を交えて説明。心の中に潜んでいる「泣き虫鬼」などを追い払うために豆まきを行いました。豆まきでは、保育士が扮する鬼も登場。あまりの迫りに泣き出す園児もいましたが、子どもたちが力を合わせて鬼を撃退するなどしていました。

郷土の偉人に思いをはせ

～ 白瀬中尉をしのぶ集い・雪中行進 ～



約500人が白瀬中尉をしのび大行進

1月28日、白瀬中尉をしのぶ集いが開催され、市内の小中学生など約500人が金浦勤労青少年ホームと南極公園広場間の2.5kmのルート雪中行進しました。これは1912年の1月28日に白瀬中尉が、南緯80度05分西経156度37分に到達した偉業をしのび、毎年開催されているものです。

この日は、あいにくの空模様となりましたが、参加者らは寒さをものともせず、郷土の偉人に思いをはせながら元気に行進していました。午後からは、単独徒歩で南極点到達を目指す探検家の講演も行われました。

染み渡る、歴史と味覚

～ 掛魚まつり ～

2月4日、金浦山神社を主会場に恒例の掛魚まつりが行われました。この行事は、海上安全や豊漁祈願を目的に行われるもので、300年以上の歴史を持つとされています。参加者ら約200人は、荒縄に吊した寒鰯を担ぎ、金浦漁港から金浦山神社までの道のり約2kmを巡行し、49本もの寒鰯を奉納しました。

また、勢至公園ではタラ汁の販売などが行われ、来場者はこの時期にしか食べられない旬の味覚を味わおうと長い列を作りました。熱々のタラ汁を笑顔でほおぶ姿が会場の至るところで見ることができました。



天候に恵まれ4,000人ももの来場者が訪れた

地域に根づく商品を

～ 地域商品再構築研修会 ～

1月28日、道の駅象潟ねむの丘で、首都圏に展開するスーパー「紀ノ國屋」のテクニカルアドバイザー大坪素久氏を講師に地域商品再構築研修会が行われました。

講師の大坪さんは、消費者が求める嗜好や販売戦略を、自身の体験談を織り交ぜながら説明。地方から全国に向けて、商品の魅力を発信していくことの大切さなども語りました。参加した約20人の販売関係者らは、講師のアドバイスを熱心に聞き入り、メモを取る姿が見られました。そして、持参した自社商品を講師に見せ、パッケージや価格、ネーミングなどの助言を受けていました。



商品に関して助言をする大坪氏(写真左)

未知なる可能性を秘めた果実

～ にかほ市特産 いちじくの日まつり ～

1月29日、象潟構造改善センターを会場に、「いちじくの日まつり」が開催され、市内外の料理人やいちじく栽培関係者を対象にした、試食会と講演会が行われました。試食会では、にかほ産のいちじくを使用した「揚げ出し」「カレー」など13品が紹介され、いちじくの活用方法に、驚きの声があがりました。

大竹地区ふくじゅ館で行われた講演会では、いちじくを使用した商品を開発している講師から、いちじくの葉を使ったお茶の話などが紹介され、いちじくを使用した地域活性化に向けての一步を踏み出しました。



紹介したいちじく料理の味は？

100歳 長寿

阿部 モトヨさん

おめでとございます

1月30日、阿部モトヨさん(洗釜)が100歳の誕生日を迎えられ、市から、長寿祝状と祝金(30万円)が贈呈されました。阿部さんはご家族と多くの施設入所者の方々が見守る中、盛大に祝福されました。どうぞこれからもお元気で末永くお過ごしください。

▲長寿祝状と祝金を贈呈された阿部モトヨさん

寄附・寄贈

仁賀保神社・齋藤神社 相撲世話人会 様より

平沢地区に130年以上前から伝わる、奉納相撲の伝統を未永く継承していただくため、平沢小学校に対し、相撲マットが寄贈されました。

ありがとうございます